

授業科目名	病理学Ⅰ	単位数	1	対象学年	1	講師	薬師寺慈恵病院 病院長／岡山大学病院 薬師寺 泰匡
科目名の英文	Pathology						
授業のねらい	<p>病理学は基礎医学を構成する学問の1つであり、人間の病気の理（ことわり）、つまり病気の原因や発症・進展の過程、患者に対する影響などを明らかにして、病気に関する見方・考え方を追求する学問である。看護師養成のカリキュラム改正に伴って、「疾病の成り立ちと回復の促進」の中で、病理学は総論とよばれる部分と各論とよばれる部分に分けて構成され、解剖学・生理学・生化学・微生物学など他の基礎医学をベースに、系統的な知識の一要素として学習することとなった。この病理学Ⅰは総論の部分で、様々な臓器の疾患を「炎症」「循環障害」「代謝障害」「腫瘍」などの項目で横断的に眺めることによって、臓器の違いを超えて共通に見られる病気の成り立ちなどを中心に学習する。これらの生体内の基本的な知識を身につけ、判断し、正しい行動原理を選択することが将来の看護現場において求められていく。病理学はまさに臨床医学に科学的根拠を与える重要な土台となるため、総論で学ぶ様々な専門用語を理解していくことも含め、将来さまざまな病気やその看護活動の実践に応用できる力をつけるための礎となることをねらいとする。</p>						
学生の皆様へ	<p>病理学Ⅰでは、病気の成り立ちや身体における病的変化の原因、成り立ち、経過、転帰、など臨床医学の基礎を理解し、これらの知識を卒業後の臨床の場で役立たせ、適切な看護ケアに応用できるような力をつけられるよう、関連づけて思考する方法を学ぶことをねらいとする。</p>						
具体的な到達目標	<p>1.病因と病変によって生体の臓器組織に現れる形態・機能・代謝の変化を理解し説明できる 2.疾病に応じた看護を関連づけて考える基礎を身につけ、必要な看護を説明できる</p>						
授業の日程	学修テーマ	学修内容	時間数				
	病理学総論	病理学概念（病理学の医療における役割、看護において学ぶ意義）	1コマ				
	細胞	細胞の障害と適応 変性・壊死・萎縮・過形成	1コマ				
	先天性異常	奇形と遺伝性疾患、遺伝性疾患および染色体異常、先天性・遺伝性疾患の診断と治療	1コマ				
	代謝（1）	脂質代謝異常と疾患、タンパク質代謝異常と疾患、糖質代謝異常と疾患	1コマ				
	代謝（2）	その他の有機質・無機質の代謝異常と疾患核酸代謝異常症、色素代謝異常症	1コマ				
	感染症（1）	感染の成立と感染症の発病（病原体と感染源、生体の感染防御機構、感染経路、経過、疾病発症の機序）	1コマ				
	感染症（2）	主な感染症（ウイルス感染症、細菌感染症、真菌、原虫、寄生虫感染症、プリオン病）治療と予防（薬物療法、医療関連感染、予防接種、検疫）	1コマ				
	炎症	炎症に関わる細胞、炎症メディエーター、炎症の分類と治療、急性炎症、慢性炎症、滲出性炎症、特異性炎症	1コマ				
	免疫	アレルギー疾患、自己免疫疾患、免疫不全	1コマ				
	循環障害	充血とうっ血、虚血と貧血、血栓と塞栓、出血と梗塞、ショック、浮腫、DIC	1コマ				
	環境因子	生活習慣と環境因子による生体の障害（生活習慣、放射線、中毒）	1コマ				
	腫瘍（1）	定義と分類、腫瘍発生の病理	1コマ				
	腫瘍（2）	良性腫瘍と悪性腫瘍、腫瘍の診断と治療	1コマ				
	老化	老化と死（老化のメカニズム、老年症候群、終末期医療）	1コマ				
授業科目名	病理学Ⅱ（各論）	単位数	1	対象学年	1	講師	薬師寺慈恵病院 病院長／岡山大学病院 薬師寺 泰匡
科目名の英文	Pathology						
授業のねらい	<p>病理学は基礎医学を構成する学問の1つであり、人間の病気の理（ことわり）、つまり病気の原因や発症・進展の過程、患者に対する影響などを明らかにして、病気に関する見方・考え方を追求する学問です。看護師養成のカリキュラム改正に伴って、病理学は総論とよばれる部分と各論とよばれる部分に分けて構成され、「疾病の成り立ちと回復の促進」の中で、解剖学・生理学・生化学・微生物学などほかの基礎医学の知識をベースに、系統的な知識の一要素として分割して学習することとなりました。この病理学Ⅱは各論の部分で、まず諸臓器や組織においてその機能的、解剖学的特徴を整理した上で、臓器ごとの疾患を「循環器系」「呼吸器系」「消化器系」「内分泌系」などの項目で、各々に生じる状態を考察することによって、原因や病気の成り立ちなどの特徴を理解していく流れとなっている。たとえば同じ疾患でも臓器によっての違いがあるため、疾患の種類、発生機序や進行過程における様々な現象、診断・治療について学んでいく。総論で得た知識をさらに深め、将来さまざまな病気やその看護ケアを学んでいくための礎とすることをねらいとする。</p>						
学生の皆様へ	<p>病理学Ⅱでは、各臓器特有の疾患・症状を病態生理学的に理解し、諸臓器や組織においてその機能的、解剖学的特徴について学ぶ。これらの知識を卒業後の臨床の場で役立たせ、適切な看護ケアに応用できるような力をつけられるよう、関連づけて思考する方法を身につけることをねらいとする。</p>						
具体的な到達目標	<p>1.病因と病変によって生体の臓器組織に現れる形態・機能・代謝の変化を理解し説明できる 2.疾病に応じた看護を関連づけて考える基礎を身につけ、必要な看護を説明できる</p>						
授業の日程	学修テーマ	学修内容	時間数				
	循環器疾患	血管の疾患（血管の構造、動脈硬化）	1コマ				
	循環器疾患	心臓の疾患	1コマ				
	血液・造血器疾患	骨髄の疾患、血液の疾患、リンパ系、脾臓の疾患	1コマ				
	呼吸器疾患	鼻腔、喉頭、気管支の疾患	1コマ				
	呼吸器疾患	肺の疾患、胸膜と縦隔の疾患	1コマ				
	消化器疾患	消化器系疾患の病態・診断・治療（口腔、食道、胃の疾患）	1コマ				
	消化器疾患	消化器系疾患の病態・診断・治療（腸の疾患、膵臓の疾患、肝臓、胆管、胆嚢、膵臓の疾患）	1コマ				
	腎・泌尿器疾患	腎臓の疾患、泌尿器系の疾患	1コマ				
	生殖器及び乳腺の疾患	男性生殖器の疾患、子宮、卵巣の疾患、乳腺の疾患	1コマ				
	内分泌系の疾患	ホルモンとホメオスタシス、内分泌管の疾患	1コマ				
	感覚器の疾患	眼・耳・皮膚の疾患	1コマ				
	運動器疾患	運動器疾患の病態・診断・治療骨の疾患、関節系の疾患	1コマ				
	神経疾患	神経疾患の病態・診断・治療	1コマ				
	脳の疾患	脳の疾患の病態・診断・治療	1コマ				